

# 松山櫛便り

## 第35号

購読  
無料

1日・15日発行・櫛に関する情報求ム!  
福岡県久留米市田主丸町で活動中!  
編集・発行 松山櫛復活委員会  
幹事・矢野眞由美

耳納山の片隅で失われてしまった櫛紅葉の景観を復活させることを目的に、櫛の素人がまったりとその様子を伝えていく会報です。

ブログ公開中「松山櫛復活奮闘日記」<http://blog.goo.ne.jp/elster/> 連絡先 e-mail : [elster@mail.goo.ne.jp](mailto:elster@mail.goo.ne.jp)  
ホームページ「松山櫛復活委員会」(櫛便りのバックナンバーあり) <http://www.webn-design.com/~mhaze/>

## 弓の素材としての櫛 その2

# 古代の和弓 丸木弓に使われた櫛

古事記にも登場した櫛弓。そこで和弓の歴史を見てみましょう。

### 狩猟の時代

縄文時代は主に狩猟目的として木から削りだした単純な弓・丸木弓が作られていました。補強の為



櫛(まゆみ)の実。

に樹皮や麻を巻き締め、漆で固めた弓も時折発掘されています。

弥生時代になると、貧富の差が生まれ、狩猟目的から対人兵器への改良が進められます。弓に対してより遠く、力強く、より殺傷能力が求められ、戦いの度に兵器は進歩していきました。

### 神聖な霊器として

いつの頃からか日本の弓には、兵器以上の「信仰」に近い精神的な意味が含まれ、霊器としての特色も深めていきます。

古事記では弓矢は「天表(あまつしるし)」として、天つ神の子であることを証明する神器として描かれています。

弓が邪気を払い悪魔を恐れさせるとのことから、男の子のお守りとして破魔弓もあります。

### 長大になる丸木弓

丸木弓には五種類の木が使われ、五木と呼ばれました。左表の通り、それぞれ神聖な意味合いを持つています。

弓と弦とが離れるほど飛距離や威力が出ますから、自然に弓は長くなっていきました。

しかし、日本の弓は七尺以上(2.12m)。世界の諸民族が使ってきた弓の長さは、普通、四尺(1.25~1.5m)です。から、あまりに長すぎます。持ち歩くにも戦いにも不便な長さになった理由は、一体どこにあるのでしょうか。

### 弓への尊崇感

全日本弓道連盟による「弓道教本」によると、日本人が弓に対して抱いていた尊崇感こそ、日本の弓が長大になっていった要因ではないかと説いています。世界の諸民族の中で日本人は短軀な体つき

### 丸木弓・五木の特長

櫛(まゆみ) 弓	万葉集にも「真弓」または「白櫛弓」と歌われ「張る(春)」とか「引く」の枕詞に使われた。この櫛の材質の特徴は緻密で強靱。杖や櫛にも利用された。
槻(つき) 弓	槻(つき・ケヤキの古名)はニレ科。硬くて剛直。日本武尊(やまとたける)が征討の際に使った弓が槻弓。
梓(あずさ) 弓	「梓弓」という言葉は季語として和歌に詠まれ、神事や出産などの際、魔除けに鳴らす弓(鳴弦)として使用された。
桑(くわ) 弓	男の子が生まれた時に前途の厄を払うため、家の四方に向かって桑の弓で蓬(よもぎ)の矢を射たという。
櫛(はじ) 弓	古事記に登場する「天之波士弓(あめののはじゆみ)」が有名。だがむしろ丸木弓よりも、竹と組み合わせた次の時代で櫛の特長が活かされてくる。

であるにも関わらず、しかも戦いで不利であるのにも関わらず長い弓を使っていたのは、不便さを忍んでまでも長大の尊厳さを捨てるに忍びなかつたのではないかと。日本人の尊崇感に支えられる和弓は、時代と共に技術革新が進み、素材として櫛がクローズアップされてくるようになります。

続きは次号にて

※本会報を許可なく複製・転載すること、または部分的にもコピーすることを禁じます。